

安全・安心・迅速にお届けする女性タクシードライバー

(有)矢板ツーリング 小林千春さん



(有) 矢板ツーリングで働くタクシードライバー歴四カ月の小林千春さんは主婦、三人のお子さんを持つ母親、そして、生き生きとした笑顔の仕事人でもあります。女性タクシードライバーの小林さんに心掛けなどを伺いました。

●タクシードライバーになったきっかけは？
派遣の仕事が長く、正社員の仕事を希望して来ました。人と接することや運転が好き(免許歴十六年のゴールド)であることを知っていた知人からタクシードライバーを勧められました。人の命を預かる仕事であり、自分にできるか迷いました。しかし、正社員になれること、経営者が主婦、母親で同じ立場のため、日中の勤務時間、土

日が休み、病気や学校のことなど、母親の立場を考慮してくれたことから働くことに決めました。

●タクシードライバーになって心掛けていますか？
安全・安心・迅速にお客様をお届けすることで配の女性の利用が増えたことで、女性が女性に

高齡化社会になり、女性の利用が増えたことで、女性が女性に

高齡化社会になり、女性の利用が増えたことで、女性が女性に



取材を終えて
小林さんは安心して仕事に打ち込める労働条件を用意してくれた経営者に感謝し、タクシードライバーの仕事

一つの菓子に心を込めて

高塩菓子店 高塩佳代さん(三十三歳)

●いつ頃から和菓子に興味を持ちましたか
高校二年生の時に、学校で見た「和菓子の本」がきっかけです。本に載っていた季節を表現する「ねりきり」の美しさに惹かれました。

●和菓子作りはどこで習得しましたか？
高校卒業後、横浜の国際フード製菓専門学校に入り、一年生で洋菓子・パン・和菓子を習い、二年生では和菓子を専攻しました。卒業後は、東京都世田谷区の成城風月堂で十年間働きました。

●開店の思いは
成城風月堂を辞めた後、都内のたいやき専門店に半年間たいやき作りの技術を学び、その後、矢板に戻ってきました。一年半ほどゴルフ場の受付をしていましたが、どうしても和菓子作りを諦めきれず、両親が畑として使っていた土地を活用して、和菓子屋さんを開店しました。

●将来、目指すことは
最近「ねりきり」が一番売れているので、昔からあるものを基本にした新しい菓子を考えているところです。矢板を代表するような菓子を作り、その菓子が大切な人に贈られる、そんな商品にしていきたいです。

●将来、目指すことは
最近「ねりきり」が一番売れているので、昔からあるものを基本にした新しい菓子を考えているところです。矢板を代表するような菓子を作り、その菓子が大切な人に贈られる、そんな商品にしていきたいです。

●将来、目指すことは
最近「ねりきり」が一番売れているので、昔からあるものを基本にした新しい菓子を考えているところです。矢板を代表するような菓子を作り、その菓子が大切な人に贈られる、そんな商品にしていきたいです。



●開店の思いは
成城風月堂を辞めた後、都内のたいやき専門店に半年間たいやき作りの技術